

令和8年度 第1回

進路説明会



西東京市立ひばりが丘中学校

進路を選択するにあたって

義務教育も最終学年をむかえ、卒業後の進路先を具体的に考える時期となりました。

中学校までは、誰もが就学しなければなりませんでした。これからの進路は、自分自身で決めることができるのです。大げさに言うと『人生の最初の岐路に立った』と言ってよいでしょう。

『進路を選ぶ』というのは、大きな意味でいえば『良い人生を選ぶ』ということになるのだと思います。しかし、『良い人生』に対する考え方は、人によってさまざまです。良い人生かどうかは、先になってみなければ分からないところもあります。

進路を決める上で大切なことは、自分自身をしっかりと見つめ、よく考えることです。自分の将来のこと、性格のこと、興味や関心をもっていること、体力や健康のこと、現在の学力のこと等、自分の考えをまとめ、家族や先生等からアドバイスを受けながら進路を決定していくのです。

■進路を自分自身で選択する手がかり

1 自己を知り、能力・適性を考えよう

厳しい環境でも自分を高めることができる人もいれば、ひとつのことを根気強く続け、少しずつできるようになって自信がもてるようになる人もいます。就職するなら仕事の内容をよく聞いて、続けていけそうか考えてみましょう。また、高校等へ進学するなら、目標を高いところにおいて努力することも大切ですが、授業の進め方や方針が自分に合っているのか、考えてみましょう。

2 将来の目標に合わせよう

将来の希望と中学卒業後の進路がかけ離れていませんか。進路先によっては専門色が強く、他の進路への変更が難しい場合もあります。自分は将来どのような職業につきたいのか考えて、そのためにはどのような道すじがあるのか積極的に調べていきましょう。あまり先のことは分からないかもしれませんが、例えば高校への進学を希望するなら、高校卒業後はどんな職業につくのか、専門学校・大学へ進むのか、くらいのことは考えておくべきです。

また、就職の場合には、その職種の将来性について考えることも大切です。

3 通勤・通学の時間を考えよう

自宅から進路先までの通勤や通学の時間も進路を選ぶ上で大切な要素になります。時には大きな負担になってしまうこともあるからです。高校の場合、通学に費やす時間との関係で、クラブ活動や習い事が制限される場合も出てきます。また、働きながら定時制に通学する場合などは、職場の就業時間と通学にかかる時間、高校の始業時間などを考えに入れる必要があります。健康面も含めて考えておきましょう。

4 進路先の内容をよく調べよう

進路先の内容は自分から進んで調査することが大切です。特に、夏休みが終わるまでに実践してください。進学や就職に関する各種資料を読む、インターネットで検索し、情報収集をする、説明会・体験授業に参加したり学園祭を見学し話を聞いたりする、在学・在職している人から個人的に話を聞く、担任や専門学科に詳しい先生に資料を見せてもらったり意見を聞いたりするなど、様々な方法があります。

また、進路先にはそれぞれ「個性」があります。資料に目を通すだけでは分からない内容もあります。例えば、高校なら規則やきまりはどうなっているのか、学校やクラブはどんな雰囲気かなど、入学後の生活では大切な部分が意外に分からないものです。積極的に調査・情報収集をしてください。

5 世評に惑わされないようにしよう

高校や専修学校では、事情が年々変わってきています。知り合いの卒業生や兄弟が在学した頃の事情は、そのまま今の生徒にはあてはまりません。極端に言えば、昨年と今年で事情が違っている場合もあります。また、就職する場合も、職種についていろいろと言われることがあるかもしれませんが、その職場にいる人たちは、自分の仕事に誇りや喜びをもっており、実態は勝手に世間が言っているものとは異なる場合も多いようです。無責任な評判などに左右されないようにしてください。

6 十分な話し合いをしよう

中学生にとって、自分の可能性を見つけ、進路選択をすることは容易なことではありません。一方、保護者は経験も豊富で、社会一般の考え方など、子どもには分からない部分についても助言することができます。

家庭での話し合いは、進路を探る上で大変重要な役割を果たします。しかし、期待のあまり「子どもの考えを中心にして助言や支援をする」という立場を忘れてしまいがちです。十分話し合っているようでも、三者面談になると、生徒・保護者の共通理解がなく、話し合いにならないこともあります。

学費を出すのは保護者であり、通勤通学するのは生徒本人です。それぞれの責任において十分に検討し、生徒・保護者の共通理解を深めてください。時には、家庭で考えていたことと大きな違いが生まれることもあるかもしれません。そんな時はもう一度将来の見通しをもって考え、十分話し合った上で、納得のいく進路を選んでください。

「上級学校」や「事業所」の事情は、入ってみなければ分からないところもあります。しかし、十分考えた上で進路先を選んでいれば、すべてが思った通りでなくても、自分自身で定めた目標に向かって、努力を惜しまず、頑張ることができます。

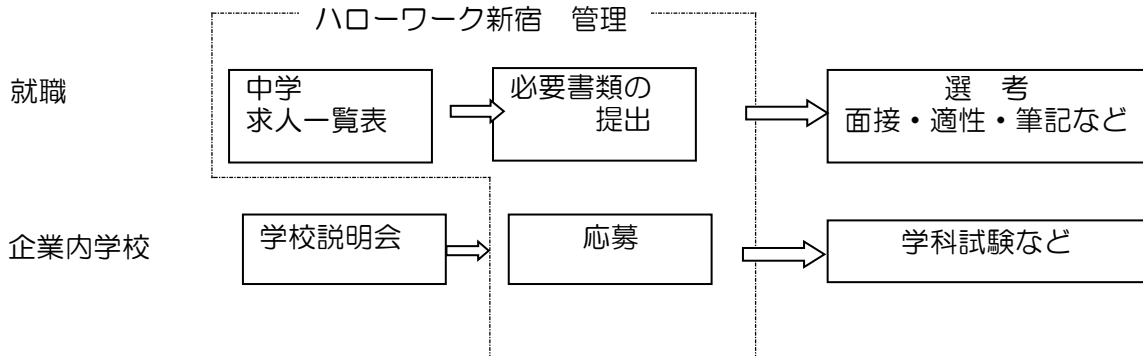
人間は試練に遭わないと成長しない面もあります。これからの試練の中で、生徒自身がさまざまに悩み、葛藤し、考え、心の面でも大きく成長するよう願っています。

1 卒業後の進路の方向

中学校を卒業してからの進路先として次のような方向が考えられます。

(1) 就職

- ① 職業安定所（ハローワーク）の斡旋で就職する。
- ② 職業安定所を経て、縁故先へ就職する。
- ③ 家事を手伝う。
- ④ 東京都職業能力開発センターで学んだ後、就職する。
（多摩職業能力開発センター 【東京都昭島市東町3-6-33】 など）



(2) 進学

- ① 東京都職業能力開発センター（多摩職業能力開発センターなど）
- ② 企業内学校
- ③ 各種学校（サポート、自動車、料理、被服、簿記、理容・美容など）
- ④ 専修学校・・・許可基準が各種学校より厳しい（1年以上）
* 高等学校卒業資格取得を併設する専修学校（主に高等専修学校と呼ぶ）もある。
- ⑤ 高等学校（公立高校、私立高校 全日制・定時制・単位制・通信制等）
- ⑥ 高等専門学校（修業年限5年間・・・現在、東京には3校）

・都立産業技術高等専門学校（品川キャンパス、荒川キャンパス）

機械システム工学、生産システム工学、電気電子工学、電子情報工学、
情報通信工学、ロボット工学、航空宇宙工学、医療福祉工学

・私立サレジオ工業高等専門学校（町田市）

デザイン学、電気工学、情報工学、機械電子工学

・国立東京工業高等専門学校（八王子市）

機械工学、電気工学、電子工学、情報工学、物質工学

2 進学について

公立高校と私立高校の違いとは・・・

	公立高校(都立・国立)	私立高校
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ○自主性尊重で、私立に比べると、規則は緩やかであるが、最近できた学校では、厳しいところもある。自主的に努力しないと自由な雰囲気になれてしまう可能性もある。 ○共学のため中学校からは、なじみやすい。 ○国立では男子校、女子校、共学校がある。 ○制服がない学校も多い。 ○都立は、商業科、工業科、コース制など、普通科以外の選択の幅が広い。 ○行事に力を入れている学校が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○独自の校訓・教育方針を持ち、それを実践している。校風も実にバラエティ豊富「文武両道」から「しとやか・上品」まで。 ○男子校、女子校、共学校、併学校と様々だが、最近では共学化の傾向が強い。制服を採用している学校が多い。 ○宗教、情操教育に特色ある学校も多い。 ○学校によって特色はあるが、一般的に生活指導は厳しい。逆に「自由」を校風とする学校もある。
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的には、生徒自身の努力に任されている。 ○1・2年までは共通で、3年生から進路別の授業選択やクラス編成をする学校が多い。 ○専門学科の高校では、資格取得が必須なので企業からの人気も高い。 ○国立高校は、その使命が「教育学に関する教育・実践に協力する」ことであるため、先進的な授業や研究授業が多い。そのため、特別な大学受験対策はなく、国立大学への編入や優遇措置はない。勉強は生徒の自主性に任されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別の実施、補習の徹底など、各校独自の工夫が見られる。 ○宿泊セミナーなども盛んである。 ○フランス語、ドイツ語などを第2外国語にしている学校もある。 ○海外留学制度を実施している学校もある。 ○設備も充実している。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○学校によってはいくつかの大学・短大の推薦枠を持っていて、成績によっては、この制度が利用できる。指定校推薦という。 ○基本的には生徒の努力に任されているが、最近では都立高校も進学指導に力を入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公立ではできない、徹底した大学受験指導をする学校も多い。 ○就職指導にも熱心である。 ○大学附属の場合は、その大学への優先入学制度がある高校もある。
クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的には、生徒の自主的な運営。指導は、その学校の先生や、OBが多い。 ○国立高校では、系列大学とつながりのあるクラブもあるが、進学とは無関係。 ○最近の都立高校は、クラブ関係の設備も充実してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○優秀な外部コーチを招いて、素晴らしい実績をあげている学校も多いが、練習は厳しい。 ○学校の特色とするために、スポーツ推薦などを取り入れている学校もある。総じて、施設は充実している。
学費	<ul style="list-style-type: none"> ○授業料は、年間約12万円。その他のPTA会費などを含めて総額で初年度で約20万円程度。どの都立高校でも大差はない。 ○都立高校も入学金(全日制課程の場合、5650円)は必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業料だけで年間約40～50万円。その他に寄付金や学校債を徴収するところもある。初年度納付金は平均80万円程度。100万円を超える学校もある。ただし、私立高校では就学支援金が支給されることになった。(詳細は高校等の資料を参照)

志望校選び 重視するポイントは？

あなたが志望校を選ぶ時のこだわりポイントはどんなところなのかを探るため、次の 11 の項目について、重視するかしらないか考えてみましょう。

また、あなたの家族はどう考えているのかも、家族に聞いてみましょう。

			○をつけてみよう→	
			する	しない
1	先生や家族などからのすすめ	先生、家族、知り合いから聞いた評判を重視する		
2	学習の制度やコース	自分が勉強したいシステムやコースが用意されていることを重視する		
3	通学のしやすさ	通学のしやすさや、交通の便を重視する		
4	学費・費用	進学後にかかる費用を重視する		
5	卒業後の進路	進学率・進学先・就職先などを重視する		
6	クラブ・行事の充実度	進学後に打ち込みたいクラブや行事を重視する		
7	学校施設の充実度	食堂や専門教室、プール・グラウンドなど自分がやりたいことが実現できるような施設があることを重視する		
8	制服	制服があるかないか、自分が入学後に着たいと思える制服かどうかを重視する		
9	教育方針・理念	学校の教育方針や理念を重視する		
10	学校の雰囲気	生徒の様子や態度、先生の信頼感・安心感など学校の雰囲気を重視する		
11	難易度・合格レベル	自分の学力や成績がその学校の合格レベルに合っているかを重視する		
12	その他 ()	()		

■あなたが重視したいポイントはどんなところでしたか。

■家族の考えはどのようなものでしたか。

都立高校について

課程について

- 1 全日制課程・・・朝から午後までの日中に授業があります。
- 2 定時制課程・・・夜間、その他定められた時間帯に授業があります。
- 3 通信制課程・・・自宅等で学習し、レポートなどの添削指導を受けながら定められた日（月2日程度）に登校し、面接指導を受けます。

学年制と単位制

- 1 学年制・・・学習する教科・科目が、学年ごとに定められており、その学習成果が認められると単位が与えられ、次の学年に進級する制度です。全日制は3年、定時制は4年（一部は3年）を修了すると、卒業が認められます。
- 2 単位制・・・学年の区別がなく、3年間（又は4年間）の中で必修（必履修）科目のほかに自分に適した教科・科目を選択し、その学習成果が認められて、入学から卒業までに決められた単位数を修得すれば卒業できる制度。単位制高校には留年がありません。

都立高校の学科

都立高校の学科には、次のものがあります。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 普通科 | 11 海洋国際科 |
| 2 普通科（コース制） | 12 家庭に関する学科 |
| 3 農業に関する学科 | 13 福祉に関する学科 |
| 4 工業に関する学科 | 14 理数に関する学科 |
| 5 科学技術科 | 15 芸術に関する学科 |
| 6 デュアルシステム科 | 16 体育に関する学 |
| 7 ビジネス科・商業科 | 17 国際関係に関する学科 |
| 8 ビジネスコミュニケーション科 | 18 総合学科 |
| 9 情報に関する学科 | 19 併合科 |
| 10 産業科 | |

* 各科の詳しい内容は、1学期中に配付予定の「東京都立高等学校に入学を希望するみなさんへ」に記載されています。（東京都教育委員会ホームページでも同じものを見ることができます。）

都立高校の特色

1 多様なタイプの学校

① コースを設置する普通科

コース制高校は都内に4校あり、すべて普通科に属します。普通科の中で、生徒の興味・関心や進路希望に応えられるよう、全ての生徒が履修することになっている基礎的な科目のほかに、特定の科目について一般に履修するよりも多く（20～25単位程度）履修できる教育課程で、1年次から英語や美術など好きな科目を重点的に学ぶことができます。

校名	コース名	重点を置く教科
深川	外国語	英語
片倉	造形美術	美術
松が谷	外国語	英語
小平	外国語	英語

② 総合学科

総合学科は、国語や理科などの共通科目から、工業や商業、情報や美術などの専門科目まで、自分の興味・関心や進路希望に応じて幅広く学べる学科です。幅広い専門科目を設置しているので、自分の個性を生かした主体的な選択ができ、実践的・体験的な学習ができます。入学年次に全ての生徒が履修する「産業社会と人間」や「多様な選択科目」の履修により、自分は「何をやりたいのか」、「何に向いているのか」、「何ができるのか」をじっくり考えながら、自らの将来の進路を探索します。

[総合学科高校と各校の系列の例]

校名		系列
全日制	晴海総合	情報システム、国際ビジネス、語学コミュニケーション、芸術・文化、自然科学、社会・経済
	つばさ総合	美術・デザイン、科学・技術、国際・コミュニケーション、スポーツ・健康、生活・福祉
	杉並総合	ビジネス、メディア・文化、国際コミュニケーション、人間・社会、科学・環境
	若葉総合	人間探求、芸術表現、伝統承継、情報交流
	青梅総合	文科・理科、国際・文化、生命・環境、食品・生活、人間・健康
	葛飾総合	国際コミュニケーション、スポーツ福祉、生活アート、サイエンス・テクノロジー
	東久留米総合	国際・人文社会、自然科学探求、スポーツ、看護・保育、芸術・表現
	世田谷総合	社会・教養、環境・サイエンス、国際・文化理解、情報デザイン、ライフデザイン、ものづくり
	町田総合	暮らし（生活全般）、ひと（心理・看護・福祉・芸術）、まち（ビジネス・情報）、自然（自然科学全般）
	王子総合	メディア・ネットワーク、国際・ビジネス、サイエンス・テクノロジー、文化・芸術、スポーツ・健康

③ チャレンジスクール

チャレンジスクールは、主に小・中学校で学校になじめず不登校の経験があったり、高校で長期欠席等が原因で中途退学を経験したりして、これまで能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒が、自分の目標を見付け、それに向かってチャレンジする高校です。現在、都内に6校あります。自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて、各時間帯（午前・午後・夜間の三部）を選んで入学する、昼夜間の定時制・総合学科・単位制の高校です。4年間かけて学ぶことを基本としますが、他部の科目の履修により、3年間での卒業も可能です。

少人数のきめ細かい指導を通して、基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、中学校の復習にも対応します。社会生活のルールやマナー、言葉遣いなどに関する学習も行い、コミュニケーション能力や社会性を育てます。学力検査や中学校からの調査書によらず、生徒の学習意欲を重視した入試（志願申告書、個人面接及び作文による選考）を行います。

桐ヶ丘 世田谷泉 大江戸 六本木 稔ヶ丘 小台橋 立川緑

④ エンカレッジスクール

エンカレッジとは、「励ます」、「力づける」を意味します。小・中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援しながら、勉強や学校行事・部活動などを通して学校生活を充実させる全日制の高校です。1年次は30分授業により基礎・基本を徹底、二人担任制、多彩な体験学習や選択授業などが特徴です。入試では調査書、面接、小論文又は作文の結果や自己PRカード等の資料による選考で、学力検査を行いません。

足立東 秋留台 練馬工科 蒲田 東村山 中野工科

⑤ 昼夜間定時制高校

自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて、Ⅰ部（午前部）・Ⅱ部（午後部）・Ⅲ部（夜間部）の三つの部の中から選んで入学する定時制・単位制・三部制の普通科高校です。基礎・基本を重視し、1学級30人の習熟度別授業など、多様な授業形態を取り入れています。1日4時限ずつ4年間かけて学ぶことが基本ですが、他の部と合わせて1日に6時限の授業を受けられるため、3年で卒業することもできます。

一橋※ 浅草 荻窪 八王子拓真 新宿山吹※（*4部制） 砂川※

※印をつけた一橋、新宿山吹、砂川の3校は併設している通信課程との併修も可能です。

⑥ 進学指導重点校、進学指導特別推進校、進学指導推進校、進学指導研究校

これらの学校は、進学実績向上のための取り組みとして、土曜日や長期休業日等の補習・講習、自習室や図書館の開放時間の延長などを行っています。

【進学指導重点校】

難関国立大学や国公立大学医学部医学科への進学を実現するために必要な学習に取り組む学校です。

日比谷、西、国立、八王子東、戸山、青山、立川（※令和10年度まで）

【進学指導特別推進校】

国公立大学や難関私立大学等への進学を実現するために必要な学習に取り組む学校です。

小山台、駒場、新宿、町田、国分寺、国際、小松川（※令和10年度まで）

※新設や改編された学科

①工業系学科

- ・中野工科高校 キャリア技術科から食品サイエンス科へ学科改変
- ・杉並工科高校 機械科、電子科、理工環境科からIT・環境科へ学科改変
- ・北豊島工科高校 総合技術科から都市防災技術科へ学科改変

②科学技術科

- ・科学技術科と創造理数科の新設

※令和9年度の詳細はまだ発表になっていません。

※特別支援学校への進学を希望する場合

- ① 東京都立の特別支援学校には、普通科、就業技術科、職能開発科があり、各校ごとに様々な特徴があります。自分の将来を見据え、いろいろな学校を十分に比較・検討して志望校を考えて下さい。
- ② 「よい学校」は、一人一人異なります。「よい学校」とは、「自分が力いっぱい活動できる」「自分の力を伸ばせる」「3年間続けていける、頑張っていける」「将来の自分の目標に近づける」学校です。特別支援学校の生徒のほとんどは、卒業後の就労を目指しています。
- ③ 特別な場合を除き、その学校に「3年間」通うこととなります。通学時間や通学のための交通手段は、充実した学校生活を送ることを考えるうえで、大切な要因です。部活動入部を必須としている学校もあります。無理なく通える学校を選びましょう。

主な特別支援学校の種類について

1 普通科(学区制) 1学級8名

田無特別支援学校 西東京市南町5-15-5 西武新宿線田無駅南口 徒歩8分

多様化する生徒一人ひとりの課題に応じた教育を推進することを目的に、学級集団や学習内容、指導形態を考慮した教育課程を編成し、卒業後の社会自立を目指します。

- <重度・重複学級/Ⅰ類型> ◆必要な個別の支援を受けながら、身辺自立の確立や集団参加を図る。
◆日常生活の指導、生活に即した学習の充実を図る。
◆安定した福祉就労を目指します。
- <Ⅱ類型> ◆個別や集団での指導を中心に、社会マナーやルール、職業生活の基礎を学ぶ。
◆基礎学力、コミュニケーション力の向上を図り、働く力を高める。
◆福祉就労、企業就労を目指します。
- <Ⅲ類型> ◆集団での指導を中心に、社会人としてのマナーやルールを学ぶ。
◆様々な場面でのコミュニケーション能力や、企業で働くための技能、態度の向上を図る。
◆企業就労を目指します

※ 入学を希望される方は、今後日程が発表される入学相談説明会にご参加ください。

2 就業技術科 1学級10名

- ・将来、企業への就労を目指す生徒が対象です。
- ・習得した知識と技能及び就労先での経験を基に、職責の範囲内で自ら判断し、職務を遂行できる能力を育成します。

志村学園 板橋区西台1-41-10 西武池袋線練馬駅よりバス志村消防署下車 徒歩10分

- 【設置コース】①ビルクリーニングコース
②流通・都市農園芸サービスコース
③食品加工コース
④介護・コミュニケーションコース

永福学園 杉並区永福1-7-28 京王井の頭線永福町駅南口 徒歩10分

- 【設置コース】①ビルクリーニングコース
②ロジスティクスコース
③事務コース
④食品コース
⑤福祉コース

青峰学園 青梅市大門3-12 JR青梅線河辺駅よりバス看護学校入口下車 徒歩5分

- 【設置コース】①エコロジーサービスコース
②ロジスティクスコース
③食品コース
④福祉コース

南大沢学園 八王子市南大沢5-28 京王相模原線多摩境駅 徒歩12分

- 【設置コース】①ロジスティクスコース
②食品コース

- ③ビルクリーニングコース
- ④福祉コース
- ⑤エコロジーサービスコース

水元小合学園 葛飾区水元1-24-1 JR常磐線金町駅よりバスふれあいの家下車 徒歩0分

- 【設置コース】
- ①オフィスサービスコース
 - ②ロジスティクスコース
 - ③ビルメンテナンスコース
 - ④フードサービスコース

3 職能開発科 1学級10名

- ・将来、企業への就労を目指す生徒が対象です。
- ・就労先で求められる知識と技能を習得し、任された職務を正確に遂行できる能力を育成します。

東久留米特別支援学校 東久留米市野火止2-1-11

西武池袋線清瀬駅よりバス 東久留米総合高校下車 徒歩3分

- 【設置コース】
- ①食品サービスコース
 - ②流通加工サービスコース

足立特別支援学校 足立区花畑7-23-15

東京メトロ千代田線綾瀬よりバス花畑団地下車 徒歩10分

- 【設置コース】
- ①物流や小売りに関するコース
 - ②食品加工・販売に関するコース

港特別支援学校 港区港南3-9-45 JR線品川駅港南口 徒歩15分

- 【設置コース】
- ①食品に関するコース
 - ②物流に関するコース

江東特別支援学校 江東区東陽4-11-45 東京メトロ東西線東陽町駅西口 徒歩8分

- 【設置コース】
- ①食品に関するコース
 - ②物流に関するコース

※ 特別支援学校を希望する場合、志願する学校(出願を希望しているすべての学校)の事前の個別の説明を受けてください。(直接当該校へ連絡し、日時の予約をしてください。)

※ 当該校における個別説明で、応募資格が確認された段階で、当該校から願書等の必要な書類が渡されます。

2 都立高校の入試の仕組み

都立高等学校の選抜方法

近年、都立高校では改革が進み、新しいタイプの学校も設立されています。各校とも学校独自の特色を打ち出し、入試方法も多様化しています。従って、自分の目で確かめ、自分に適した学校なのかをよく考えて選択することが大切です。(ここに書かれているのは、昨年度の大まかな選抜方法です。各校により、また年度により方法が異なる部分があります。)

都立高校の入試は、推薦に基づく入試(推薦入試)と、学力検査に基づく入試(第一次募集・第二次募集・分割募集)があります。なお、学力検査によらない入試を行う学校もあります。

次の表は、「推薦入試」「一般入試」の違いを表したものです。

	推薦入試	一般入試	
		第一次募集・分割前期募集	分割後期募集・第二次募集
募集人数	普通科、商業科、など学科によって募集枠が決まっている。普通科の場合は全体の20%以内となっている。	全体の募集数から推薦入試の合格者数を引いた人数。分割募集の場合は、あらかじめ前期・後期の募集数を定めておく。	第二次募集は欠員が生じた場合のみ実施、分割後期募集はあらかじめ定められた人数に、前期募集で欠員が生じた場合はその分を上乗せして実施する。第一次募集・分割前期募集で男女別に募集していた学校も男女合同の定員となる。
出願	1校1学科に出願。同じ学校に複数の学科がある場合は第二志望を指定できる。ただし、大学科が異なる学科には順位をつけることはできない。	1校1学科に出願。同じ学校に複数の学科がある場合は、そのすべての学科に志望の順位をつけることができる。ただし、大学科が異なる学科には順位をつけることはできない。	1校1学科に出願。同じ学校に複数の学科が募集していれば、大学科が異なってもそのすべての学科に志望の順位をつけることができる。
志願変更	できない。	チャレンジスクール、昼夜間定時制から全日制への志願変更はできるが、その逆はできない。	チャレンジスクール、昼夜間定時制から全日制への志願変更はできるが、その逆はできない。
検査	学力検査は行わない。全員個人面接を受ける。一部集団討論がある。また、小論文又は作文、実技検査などからひとつ以上の検査を実施。	学力検査を行う。原則、国語・数学・英語・社会・理科の5教科入試。英語にはリスニングを含む。面接や作文又は小論文、実技検査を実施するところもある。	学力検査を行う。原則、国語・数学・英語の3教科入試。英語にリスニングはない。面接や作文又は小論文、実技検査を実施する場合もある。
選考	調査書、(集団討論及び)個人面接、小論文又は作文などの検査の結果を点数化し、その合計点で選考する。	学力検査の結果と調査書を1000点満点に換算。学力検査の得点と内申の比率は7:3(芸術及び体育に関する学科は6:4)。定時制は、7:3または6:4のどちらかとする。令和5年度からESAT-J(英語のスピーキングテスト※P.16参照)の結果を最大20点加え、1020点満点で選考する。	学力検査の結果と調査書を1000点満点に換算。学力検査の得点と内申の比率は、全日制で6:4とし、定時制は6:4または5:5のどちらかとする。令和5年度からESAT-J(英語のスピーキングテスト)の結果を最大20点加え、1020点満点で選考する。

このように、異なる特徴を理解しましょう。そして、都立高校に合格した場合は、必ずその学校に入学手続きをします。また、都立分割後期・都立二次募集を受検できるのは進学先が未定である生徒のみとし、国私立高校などに入学手続きを終えている生徒は受検できません。

① 推薦に基づく入試について

推薦に基づく入試は、主に都立高校全日制課程で実施され、以下の3種類があります。

一般推薦	一般推薦に志願する意思があり、在学している中学校長の推薦を受けた生徒
文化・スポーツ等特別推薦	文化・スポーツ等特別推薦に志願する意思があり、在学している中学校長の推薦を受けた生徒 ※一般推薦と同時に受けることが可能

理数等特別推薦	令和7年度入試では立川高校、創造理数科のみ実施。 ※一般推薦、文化・スポーツ等特別推薦と同時に受けることは不可能
---------	---

なお、**推薦入試で合格したら、必ず入学しなければなりません。**

② 推薦に基づく入試の実施方法

各校は、調査書、集団討論及び個人面接、小論文または作文等の検査を総合した成績（これを「総合成績」といいます）の高い者から順に合格者を決めていきます。調査書の満点については、総合成績に占める調査書点の割合の上限を50%とし、各学校が適切に定めます。全ての都立高校で、調査書点は「観点別学習状況の評価（全27観点）」または「評定（9教科）」のどちらか一方を点数化します。ただし、エンカレッジスクールとして指定された都立高校は、観点別学習状況の評価を用います。

※ 一般推薦の例（井草高校の場合）

調査書		集団討論	小論文	総合成績
観点か評定か	調査書点	個人面接		
評定	500	200	300	1000

※ 文化・スポーツ等特別推薦の例（石神井高校「バスケットボール」の場合）

調査書		集団面接	小論文	実技検査	総合成績
観点か評定か	調査書点	個人面接			
評定	450	集団150	—	300	900

※ 理数等特別推薦の例（立川高校 創造理数科の場合）

調査書		集団面接	小論文	実技検査	口頭試問	総合成績
観点か評定か	調査書点	個人面接				
評定	500	個人50	200	—	250	1000


なお、推薦入試の募集人数は、普通科・商業科は定員の20%以内、普通科のコース・専門学科・総合学科は定員の30%以内と決まっています。

今春（R8年度入試）の全日制全体の応募倍率は1.30倍でした。（ここ数年の傾向として低い水準です）全体の倍率は1.26倍であり、全体的に倍率が低下しています。


③ 推薦に基づく入試の内容

(1) 集団討論（令和3～6年度は中止、令和7年度は13校、令和8年度は6校で実施）

…コミュニケーション能力や協調性、思考力、判断力、表現力などを評価するもので、与えられたテーマについて自分の考えを明確に述べることができるか、複数名の受検生同士が協力して一つのテーマに関して議論を進めて結論を導くことができるかなどを確認するもの。検査官3名に対し、受験生5～7名、時間は30分程度で、出されたテーマについて2～3分、自身で考え、お互いに意見を出し合う形が多いようです。他人の発言をきちんと聞いた上で、テーマに合った自分の意見を述べることができるかが、ポイントになっているようです

テーマ例（R7年度）（抜粋） 「これからの社会に求められる教養とは何か。」 「現代の生活や文化の中で、100年後の人々や社会に伝えたい、又は残したいものは何ですか。」 「自然災害が起こったとき、あなたはその被害を少なくするために『自助』『共助』『公助』のどれに重点をおくべきと考えるか。」 「チームを動かす力（リーダーシップとは?）」 「1学期のクラス目標をきめようとしている。より良い人間関係を築くためにあなたが最も大切にしたいことは何ですか?」
 ・部活・クラス活動・行事など、学校生活における問題事項の対処法 ・携帯電話・自転車のマナー、公共の乗り物の優先席やゴミ問題についてなど日常生活における話題 ・選挙権の年齢制限や自然災害発生時に高校生ができることなど、時事的話題と高校生活を合わせたテーマ
などがよく取り上げられています。


(2) 個人面接…出願の動機・理由、興味・関心、高校生活に対する意欲、適性、規範意識・生活態度や自己PRカードの記載内容、中学校における様々な活動の状況及び将来の進路希望などを確認し、質問の内容を的確に把握し適切に応答する能力や表現力などを評価されます。また、これまでの経験を今後の高校生活に生かすことができる力があるかなどが確認されます。

 各校が発表している「本校の期待する生徒の姿」をよく読んでおくといでしょう。

(3) 小論文・作文…都立推薦入試では、作文・小論文、実技検査などから必ず1つ以上の検査を実施することになっています。作文・小論文の配点は調査書や集団討論・面接と比較して低いところが多くなっていますが、調査書点では差がつきにくい、学力上位校を中心に、作文・小論文点が合否に影響を及ぼすこともあります。

テーマ例 (R7年度) (抜粋)

「関東大震災の被害の原因について、資料から読み取り答える」
「60歳以上の金融資産の推移について、資料を読み取り答える」
「本校の教育目標〇〇について答えなさい。自身の経験を例に挙げてあなたの考えを述べなさい」
「あなたが中学校生活で、環境に関する課題を解決するために取り組んだことは何ですか。また、この経験を生かし、本校では、どのようなことを学び身に付けたいですか。」
「あなたが、学校生活で人と協力して取り組んだことを具体的に書いてください。また、その経験を高校生活でどのように生かしていくか述べなさい。」

 資料(文章・グラフ・表)などから読み取って答えるものと、自分の経験をもとに考えを書くもの、与えられたテーマや言葉について考えを書くものが多いようです。

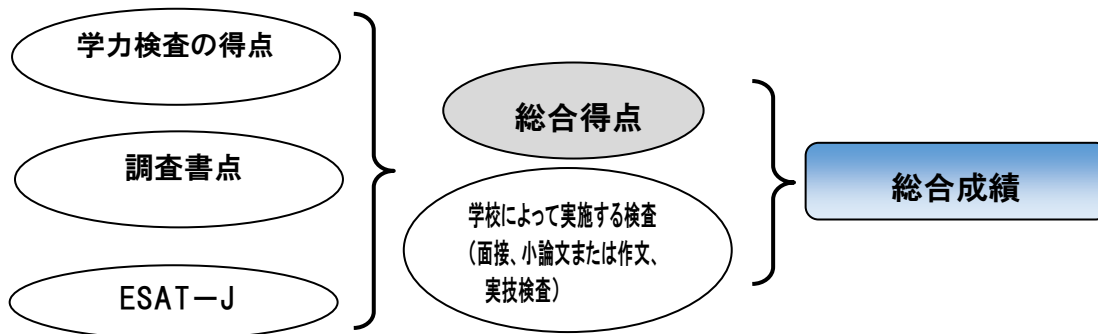
④ 学力検査に基づく選抜(一般入試)について

一般入試は、都内全域から1校1科に限って志願できます。ただし、志望する同一の都立高校内にある同一の学科内に2科(2分野)以上ある場合は、他のすべての科(分野)に志望順位をつけて出願できます。都立推薦入試に合格した生徒、都立中高一貫校(後期課程)に進学を予定している生徒は出願することはできません。

出願後、1回は志願変更ができます。ただし、一部の高校を除いた定時制への変更や、同一校内にあるコースまたは学科内の相互の科の間での志望順位の変更はできません。

⑤ 学力検査に基づく選抜の実施方法

調査書、学力検査の得点、ESAT-J、学校によって実施する検査(面接、小論文または作文及び実技検査)を総合した成績等によって選考されます。学力検査は原則として、全日制課程は第一次募集・分割前期募集では5教科(国数英社理)、第二次募集・分割後期募集では3教科(国数英)を実施します。なお、エンカレッジスクールとして指定された都立高校においては、学力検査を実施しません。定時制課程は5教科のうち、3教科を下らない範囲で各都立高校が定め、面接も実施します。



合否は、学力検査の得点と、調査書の評定を換算した調査書点、ESAT-J(英語スピーキングテスト)を合計して1020点満点の「総合得点」にし、その得点の高い生徒から順に合格とさせていただきます。面接や小論文または作文、実技検査を実施した場合は「総合得点」にその点数を加えます。それが「総合成績」です。

【総合得点の出し方】

学力検査と調査書の比率は原則として、全日制課程1次募集では7：3、2次募集では6：4、定時制課程では7：3を各学校が定めます。また、チャレンジスクールやエンカレッジスクールなど、学校独自の試験を実施するところもあります。10：0の学校もあります。

調査書点は、学力検査を実施しない4教科について、評定を2倍して点数化します。

5教科入試の場合

[5科（国数英社理）の内申合計×1] + [4科（音美体技家）の内申合計×2]			
↑25点満点	+	↑40点満点	= 65点満点

では実際に、ひばり君の例で計算してみましょう。

できるかな



ひばり君の評定は、

国語4、数学3、英語5、社会4、理科3、音楽3、美術4、体育4、技家3 です。

まず、換算内申点・調査書点を計算しましょう。

$$\left(\begin{array}{c} \text{国} \\ \text{数} \\ \text{英} \\ \text{社} \\ \text{理} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{音} \\ \text{美} \\ \text{体} \\ \text{技家} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{c} \text{計} \\ \text{計} \\ \text{計} \\ \text{計} \\ \text{計} \end{array} \right) \dots \textcircled{1}$$

$$\left\{ \left(\begin{array}{c} \text{音} \\ \text{美} \\ \text{体} \\ \text{技家} \end{array} \right) \right\} \times 2 = \left(\begin{array}{c} \text{計} \\ \text{計} \\ \text{計} \\ \text{計} \end{array} \right) \dots \textcircled{2}$$

①+②= 点 …換算内申点

(①+②) × 300 ÷ 65 = 点 …調査書点 (A)

次に、換算得点を計算しましょう。ひばり君の入試得点は、

国語80点、数学75点、英語85点、社会70点、理科65点 でした。

$$\left\{ \left(\begin{array}{c} \text{国} \\ \text{数} \\ \text{英} \\ \text{社} \\ \text{理} \end{array} \right) \right\} \times 1.4 = \text{点}$$

…換算得点 (B)

最後に、ESAT-Jの得点を確認しましょう。ESAT-JのスコアはA～Fの6段階です。点数換算は次の通りです。

A…20点 B…16点 C…12点 D…8点 E…4点 F…0点

ひばり君のESAT-Jのスコアは、Cでした。

ESAT-Jのスコア

() → () 点 …ESAT-J (C)



(A) + (B) + (C) = () 点 …総合得点

※ESAT-J（英語スピーキングテスト）について

東京都立高等学校入学者選抜では、令和5年度入学者選抜（令和4年度実施）から、東京都中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）の結果を活用し、英語4技能のうち「話すこと」の能力をみることになりました。

- ・実施日 令和7年 11月22日（日）〈予備日 12月13日〉（昨年度）
- ・会場 都立学校、大学、民間施設等
- ・出題のねらいと形式

Part	出題のねらい	出題形式	出題数	評価の観点		
				コミュニケーションの達成度	言語使用	音声
A	英語音声の特徴を踏まえ音読ができる力をみる。	英文を読み上げる	2			○
B	図示された情報を読み取り、それに関する質問を聞き取ったうえで、適切に回答する力や、図示された情報をもとに、「質問する」、「考えや意図を伝える」、「相手の行動を促す」など、やり取りする力をみる。	質問を聞いて回答する ・意図を伝える	4	○		
C	日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力をみる。	ストーリーを英語で話す	1	○	○	○
D	身近なテーマに関して聞いたことについて、自分の意見とその意見を支える理由を伝える力をみる。	自分の意見を述べる	1	○	○	○

・評価の観点

- (ア) コミュニケーションの達成度【2段階（0～1）】コミュニケーションの目的の成立
- (イ) 言語使用【5段階（0～4）】語彙や表現の使い方や幅広さ、内容の一貫性、論理構成
- (ウ) 音声【4段階（0～3）】発音、イントネーションなど

⑥ 自校作成問題について

全日制一般入試第一次募集で、入試問題を自校作成しているのは10校です。学力検査問題3教科（国語・数学・英語）は自校で作成した問題を実施し、2教科（社会・理科）は都立高校共通問題を実施します。

日比谷、戸山、青山、西、八王子東、立川、国立、新宿、墨田川、国分寺

なお、国際高校では、英語のみ自校作成しています。

※上記高校では、マークシート方式を導入しない科目があります。自校作成校では国語、数学、英語では導入せず、社会、理科はマークシート方式を導入しています。国際高校では、英語のみマークシート方式を導入していません。

⑦ 前期・後期分割募集の実施

一般受検の募集人員をあらかじめ分割し、一次募集における（前期）と二次募集を行う（後期）に定員枠を設けて2回に分けて募集を行う制度です。一部の学校で実施しています、

二次募集は、一般受検で定員に満たなかった学校が行います。倍率が高く狭き門となるケースもあります。

⑧ 自己PRカード

都立高校を受検する生徒で、自己PRカードを記入し出願書類と一緒に高校に提出します。推薦入試や一般入試で面接を実施する学校においては、面接の際の資料として自己PRカードが活用されます。

チャレンジスクールの場合は、自己PRカードの代わりに、各学校所定の「志願申告書」を提出します。

私立高校について

入試の仕組み

私立高校には、それぞれ独自の教育方針と校風があり、入試方法も様々です。自分の目で確かめ、自分に適した学校なのかをよく考えて選択することが大切です。（ここに書かれているのは、大まかな選抜方法です。各校により、また年度により、方法は多少異なります。）

① 推薦に基づく入試について

「合格したら必ず入学する」ことを条件に一般入試より有利な条件で受験できる制度です。推薦入試は、中学校や高等学校の推薦基準を満たし、中学校長の推薦を得ることができる生徒が受験できます。

選考方法（学校によって異なります）

各高校の推薦基準に照らし、調査書、推薦書、面接、作文、実技などにより選考します。原則として、学力試験は課されません。しかし、適性検査（国・数・英の基礎学力テスト）を実施する高校もあります。私立高校では、推薦入試の募集人員は定員の50%まで認められています。

推薦の基準は、人物が第一ですが、それ以外に各高校の定める推薦条件（学習意欲・成績・特別活動の実績・欠席日数、遅刻回数など）を満たしている必要があります。また、学校説明会・体験授業などに参加していることが条件の一つになっている高校もあります。

【私立高校・専修学校その他 推薦基準】

- ・ その私立高校・専修学校その他の学校への入学を第一志望とする者で中学校長が推薦する者。
- ・ 人物、身体ともに健全で、一定の学力水準にある者
（中学在学中の活動、生活面、欠席、遅刻、早退の回数を含む）

[具体的な推薦基準例]

5科（国・社・数・理・英）の内申合計 18 以上、かつ 3 科（国・数・英）に 2 がないこと、遅刻・欠席 10 日以内など

各種検定（英検、漢検、数検等）、ボランティア活動や生徒会活動の実績、欠席・遅刻日数などを重視する学校が、近年増加しています。推薦入試は、受験者全員が合格するわけではありません。残念ながら、不合格となる場合もあります。

② 一般入試について

ほとんどの高校が国語・数学・英語の 3 教科の学力試験と面接・調査書で合否を決定します。高校によっては、試験の得点と同様に調査書も重く見ます。一般的に、学力試験の得点が同じで合否を決めなければならない時には、調査書が資料とされます。

面接も合否判定の上で、重要な資料となります。生活指導上問題があると面接で判定された場合は、学力試験の得点が高くても不合格になることがあります。

【併願優遇制度】

- 「もし第一志望の〇〇高校が不合格になった場合、必ず貴校に入学する」ということを確約した上で受験できる制度。一般入試より有利な条件（学力試験の結果を優遇するなど）で受験できます。
- すべての私立高校に併願優遇制度があるというわけではなく、制度のない学校もあります。
- 第一志望高校を都立高校に限定している高校があります。
- 一部の高校で、第一志望校が私立高校であっても利用できる場合があります。（私立高校の入試説明会などで情報収集できます）
- 都立高校の合格発表まで、入学金などの延納を認める学校、入学金などの一部を納入する学校など、各学校で条件が設定されています。都立推薦入試で合格しても、出願だけ求められたりすることがあります。また、延納は募集の合格発表までしか待ってもらえません。

3

高等学校等への推薦を希望する場合の留意事項

<本校の推薦基準>

- ・ 学校生活のルールを守ることができる。
- ・ 学習に意欲的に取り組んでいる。
- ・ 学校内外の諸活動にも積極的に取り組んでいる。
- ・ 基本的な生活習慣が確立している。

※推薦決定後、学校の代表としてふさわしくない行動が見られたときは、推薦取り消しを行うことがあります。

- (1) 推薦入学は、本校と当該学校等との信頼関係で成り立っています。そのため、推薦生徒の決定にあたっては、その生徒が学校代表としてふさわしい人物であると認め、学校内外の活動の一面だけでなく、多面的かつ総合的に見て、本校の推薦者として進学先でも努力する意欲をもち続ける生徒であると判断した教職員の意見を踏まえ、校長が推薦をします。
- (2) 推薦入試は、ほとんどの場合、学科試験を免除されるため、一般入試のように当日の試験のでき具合に左右されることがない分、有利な受験方法といえるかもしれません。
しかし、早い時期に志望校を限定せざるを得ないため、後に他の学校を受験したくなくても取り消しができないこと、また入学後も中学校の推薦を受けたという強い責任をもった生活を送る必要があるなど、様々な制約もあります。
- (3) 当該高等学校等入学後も本校の推薦を受けた生徒としての自覚をもって学校生活を送ってください。入学後の生活によっては、本校の推薦に対して信頼を損なう結果となり、来年度以降の推薦・一般受験に影響する場合があります。
- (4) 当該高等学校等の学校説明会等には必ず参加しておいてください。
- (5) 都立高校の推薦入試は倍率が非常に高く、合格することが難しい状況です。また再度、一般で同じ都立高校を受検しても有利・不利になることはありません。しかし、一般入試で受ける前に「試し受検でも・・・」という考えで受検に臨み、不合格となって気持ちの動揺が大きくなってしまい、一般入試で実力が発揮できなかったという事例も見られます。十分に考えた上での希望をお出しください。
- (6) 推薦入試の場合、一般入試の受験者より早く合否が出ます。早く合格が決定した場合、目標に向かって努力を続けている他の受験生への十分な配慮が必要です。また、推薦合格者の中には、一般入試の受験者に比べ勉強不足になる生徒も見られます。高校入学後の授業に備えて、真剣に学習する必要があります。
- (7) クラブチーム、その他から自己推薦等についてご相談があれば、早めに学級担任までお知らせください。万が一、クラブチーム等のご家庭だけが知っていて、本校の教員が把握していない状況ですと、調査書や推薦書等の準備ができません。自己推薦等をお考えの際は早めに学級担任までお知らせください。

4 自分に合った進路先を選ぶために

進路先として、多くの人が高校を選ぶのではないかと思います。そこで、少し高校進学に向けた内容を取り上げます。

～各学校の特色を知る～

都内には国公立私立合わせて400校以上もの高校があります。学科やコースも分かれているので、およそ1000以上もの選択肢の中から学校を選んでいくことになります。

インターネットや高校受験案内の冊子等から情報を得るとともに、実際に各学校へ出かけてみるのが一番大切です。各学校がその特色や魅力をみなさんに伝えるため、学校訪問を受け付けたり、授業公開、体験入学を実施したりしています。また、文化祭や体育祭等を見学できるところもあります。3年生で行くものと思っている人が多いかもしれませんが、1年生や2年生でも参加できるものもあり、参加者は増えているようです。

見学等に行く時の注意

1 服装はひばり中の制服で

制服は正しく着用しましょう。ボタンを開けたままのシャツや短いスカート丈は場にふさわしくありません。

2 持ち物、頭髪もきちんと



不必要に大きなキーホルダーがついていたり、落書きがあつたりするカバン、かかとを踏んだ跡がわかる上履き、ガムやスマホなどの不要物はN持ち込んではいけません。また、清潔感のない頭髪や、ワックスやヘアアイロン、編み込み等、手を加えた髪型もやめましょう。

3 見学等も入試のつもりで真剣に

こちらは気軽に見学のつもりでいても、高校の先生方はみなさんのことをよく見ています。ひばり中の生徒として行くのですから、もし良くない印象をもたれてしまうと、自分だけでなく、同級生や後輩の印象まで損なうこととなります。

4 できるだけ保護者と一緒に

できれば保護者の方と一緒に参加しましょう。また、友達の付き添いで一緒に行くこと、逆に友達に付き添ってもらって行くことは、絶対にやめましょう。

5 公共交通機関を使って行く

自転車の方が近くて便利でも、徒歩または電車・バスを利用して行きましょう。自転車は絶対に利用しないでください。



事前予約、見学は廊下から、見学中の会話禁止、参加人数の限定など、高校ごとに「三密」を防ぐ対策をとっています。事前によく調べてから参加してください。



5 今後の進路関係の予定について

(1) 今後の予定の概要

- 7月の面談では1学期期末の成績をふまえて、夏休みから2学期に向けて今後、何をしたらよいか、どう頑張ったら良いのかを担当の先生とお子様と話し合ってください。
- 私立高校の細かな基準に関しては、9月から10月に令和9年度入試の基準が公開されます。(夏休みに示される高校も増えてきました。)10月の面談前になって慌てることのないよう受験校をいくつか考えておいて下さい。10月の三者面談ではある程度、いくつか私立高校の絞り込みをします。
- 第2回の進路説明会は10月19日を予定しています。この進路説明会では

- ◆ 1月から3月に向けた進学・就職に関する具体的な手続き(提出書類関係)
- ◆ 9月下旬に東京都教育委員会から発表される[令和9年度入試の概要について]
- ◆ 「10月、11~12月の三者面談で気を付けていただきたいこと」等についてお話をいたします。ご多用とは思いますが、ご参加をお待ちしています。

• 11月下旬~12月初旬の三者面談では私立高校の受験校を決定していきます。私立高校は前述した通り、各高校によって基準があります。受験に備え、各ご家庭で(私立の)願書、調査書、その他の書類のご準備をお願いします。

- 学級、進路の提出物が家庭に生徒を通じて、届いていない、もしくは遅れて届くという話がよく聞かれます。進路の提出物は大切な提出物ばかりです。必ず期限内に提出をお願いします。

(2) 学年進路指導方針とお願い

1 進路相談は遠慮なくご相談ください

保護者会でお伝えしたように、相談の中心は学級担任ですが、進路指導は学年全体で進めていきます。どんな相談でも構いません。遠慮なくご相談ください。

2 進路の最終決定は、本人と保護者です

学級担任は、進路選択について様々な資料をもとにアドバイスしますが、決定者ではありません。「もうどこでもいいですから、先生が決めてください。」と言われたとしても、決めることはできません。あらゆる検討をした結果、最終決定は本人と保護者です。自分の足で行き、見て、感じて、納得する。手間はかかりますが、これが適切な進路選択の一番のポイントです。特に夏休みは受験勉強の合間にできるだけ高校見学に行ってください。(見学を開催しない高校もあるかもしれません。よくホームページ等を確認してください。)

3 クラブチーム、その他の推薦の相談について

クラブチーム、その他から自己推薦等についてご相談があれば、早めに学級担任までお知らせください。調査書や大事な書類を準備したり、校長印を押印したりする等の時間が必要となりますので、よろしくをお願いします。自己推薦等をお考えの際も、早めに学級担任までお知らせください。

今後の予定について

進路説明会	第1回	6月12日（金）	
	第2回	10月19日（月）	
進路希望調査	第1回	6月19日配布 7月2日締め切り	1学期の成績は分かりませんが、今の自分が一番希望する進路希望と相談内容を書いて下さい。
	第2回	9月下旬配布 10月上旬締め切り	私立推薦を希望する場合は、どこを受験するかをほぼ確定させる時期になります。
	第3回	11月2日～ 三者面談後に配布 11月13日締め切り	この希望調査が最後です。私立推薦を希望する場合は受験校、受験方法、併願校を必ず記入して下さい。
三者面談 （一人20分程度）	第1回	7月22日（水） ～29日（水）	現段階の進路希望の確認、夏休みの過ごし方、説明会等について話をします。
	第2回	10月21日（水） ～27日（水）	私立推薦を希望する生徒はこの面談で担任に伝えて下さい。（入試相談の準備を始めます。）
	第3回	11月27日（金） ～4日（金）	私立推薦を希望する生徒の受験校の決定、併願優遇校決定、都立推薦受験校の相談、都立一般受験校の相談をします。（最終確認）
復習確認テスト （5教科） 3年生全員が対象	第1回	9月24日（木）	都立入試に準じた内容 第2回三者面談の資料として結果を活用します。
	第2回	10月30日（金）	都立入試に準じた内容 第3回三者面談の資料として結果を活用します。

6

参考

費用・奨学金について

「都立高校と私立高校の違い」

高校に進学すると様々な費用がかかります。授業料も高校から必要になります。

都立高校については就学支援金が支給される場合は実際の負担はありません。また、所得制限（年収910万円程度）を超える世帯も都が全額免除されることになりました。

私立高校では、2020年度より国の「修学支援金」と東京都の「授業料軽減助成金」支給上限が拡大されました。所得制限がなくなり、年収910万円以上の世帯に対しても、授業料が軽減されます。

○検定料と入学金

	検定料	入学金
都立	2,200円	5,650円
私立（平均）	約23,400円	約254,000円

○授業料

	授業料	教科書等
都立	全日制 年額 118,800円 定時制 年額 32,400円 ※上記の他に諸費用あり 高等専門学校 234,600円	有償 （学科・コースにもよるが、年額3万円～5万円） 私立は修学旅行や制服代、PC代が別途必要
私立	年額 30万円～100万円（平均 45万円） その他、施設費等で初年度総額 60万円～180万円（平均 90万円）	

○私立高校の授業料の軽減額

負担軽減制度があります。後日、案内を配布いたしますが、HP等でも確認をお願いします。

《奨学金について》

(内容が変更する場合がありますのでお問い合わせください)

都立、私立、専修学校問わず、入学手続きはもちろん、入学式までに納入する額は決して安価なものではありません。また、在学中も多額の学費がかかります。

そこで、東京都や東京都私学財団等では、保護者の負担を軽減するために奨学金を貸与する等の融資事業を実施しています。主な奨学金制度について紹介します。

○東京都育英資金貸付制度（東京都）

都立校は月1万8000円、私立校は月3万5000円を無利子で卒業するまで貸付。

〔お問い合わせ〕 東京都私学財団 TEL 03-5206-7929

○私立高等学校等授業料軽減助成制度（東京都）

授業料の一部を軽減（返還の必要なし）。私立校を通じて6月に申込み。

〔お問い合わせ〕 東京都私学財団 授業料軽減担当 TEL 03-5206-7925

○入学支度金貸付資金融資制度（東京都）

入学時に必要な費用のうちの20万円（一律）を進学先の私立校が無利息で貸付。

〔お問い合わせ〕 進学先の学校事務室

○その他

交通遺児育英会 〔お問い合わせ〕 財団法人交通遺児育英会 TEL 03-3556-0773

あしなが高校奨学金 〔お問い合わせ〕 あしなが育英会 奨学課 TEL 03-3221-0888

東京都では、低所得家庭に対し「チャレンジ支援特別貸し付け事業」として、中学三年生を対象に学習塾等の費用を貸し付ける制度を実施しています。

高校に合格し進学した場合は、基本的に返済を免除されるシステムです。

詳しくは東京都、西東京市にお問い合わせください。

7

参考 令和8年度入試 上級学校等 進学実績一覧

（「高等学校」は省略）

都立学校
井草
板橋
大泉桜
清瀬
国立
久留米西
工芸
小金井北
国分寺
小平
鷺宮
新宿
新宿山吹
神代
杉並工科
砂川
第一商業
第五商業
第四商業
田柄
竹早
立川
田無
田無工科
豊島
農芸
東久留米総合
東村山西
東大和南

私立学校 他	
英明フロンティア	バンタイミュージック アカデミー
開成	東野
科学技術	一ッ葉
鹿島学園	福岡第一
川越東	法政
川村	豊南
関東国際	堀越
錦城	武蔵野大学
クラーク記念国際	目白研心
狭山ヶ丘	安田学園
淑徳巣鴨	明治大学付属八王子
淑徳	
城西大学城西	
昭和第一	
昭和鉄道	
白梅	
杉並学院	
駿台学園	
成蹊	
西武学園文理	
大智学園	
拓殖大学第一	
立川女子	
中央国際	
中央大学杉並	
中央大学附属	
東亜学園	
東海大学菅生	
東京家政大学附属女子	

8

参考 進路選択の観点

(ご家庭で話し合うときの、参考の一つとしてよければご活用ください)

「行きたいけど行けない」「行きたくないけど行ける」どちらも消極的な選択です。「行きたいところへ行ける」という進路選択のために大切なのは、「行きたいところを見つける」ことです。お子様と一緒に以下の点をご確認ください。

- ◆ 入学することが難しい学校＝レベルの高い学校＝いい高校と決めつけていませんか。
(学習面の他にも高校の良い特色を見過ごしていませんか)
- ◆ 成績と高校のレベルだけで、高校選びをしていませんか。
- ◆ 選んだ学科やコースに興味・関心を持っていますか。
- ◆ 高校や高校の所在地が、お子様の学力・体力・健康状態にあっていますか。
- ◆ 将来なりたい職業や生き方にあっていますか。
- ◆ その高校の先輩たちの様子を調べていますか。
- ◆ 目先のことだけを考えていませんか。(選抜難易度、施設、制服等)
- ◆ 高校の先生たちの様子はどのような印象か調べていますか。
- ◆ 学校公開に行ったり、体験授業などを経験してみたりしましたか。
- ◆ どんなカリキュラム(授業)なのか知っていますか。
- ◆ 学校周辺の環境はどうなっているか知っていますか。
(例えば、校舎の利便性が良くても、部活動の活動場所が離れている場合などがあります。)
- ◆ 通学の便はどうか知っていますか。
- ◆ ご家族の意見の調整はできていますか。
(家庭でよく話し合い、「保護者の方に上級学校に行かせていただく」という感謝の気持ちをもつことも大切です。経済的なことも相談し、最終決定は自分の責任で決定することが重要です。)
- ◆ 3年間通える見通しがきちんとありますか。